

令和8年度

徳島市川内中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

自他を尊重し 未来を生き抜く力を身につけた生徒の育成
○基礎学力の定着と学習意欲の向上
○ICTを活用した楽しくわかる授業実践

校長

安西 栄美

学力向上推進員

釜床 愛子

【各校の取組状況の把握について】

管理職や教員による授業参観や校内巡視などを通して、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○提出物が確実にできている生徒の割合が88%、授業内容が理解できている生徒の割合が83%である。 ●長い文章を読み取ったり、複数の資料から適切な内容を探したりして、要約して書くことに課題がある。	・授業内容をおおむね理解できている。 ・基礎的・基本的な内容を習得している。 ・長い文章を読み取ったり、複数の資料から適切な内容を探したりして、要約して書くことができる。	・单元ごとに小テストを実施する。 ・発達段階に応じた、適切な量・質の課題を与える。 ・朝の読書や授業、放課後の図書室の開館など、本に触れる機会を意図的につくる。 ・徳島新聞阿波っ子タイムズの「こども鳴潮」の視写を週1回行う。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学級での話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりできる生徒が80%である。 ●自分の考えを他の人に説明したり、積極的に発表したりしている生徒が53%である。 ●文章を適切な言葉にまとめて書いたり、聞き手や読み手を意識して適切な言葉を選んだりすることに課題がある。	・各授業における課題に対し、話し合い活動等を通して、解決する方法を考えることができる。 ・課題についての説明を、根拠や理由を明らかにして、適切な言語活動により表現することができる。	・話し合いや発表にタブレット等のICTを効果的に活用する。 ・自分の意見を根拠や理由を明らかにして発表したり書いたりする機会をつくる。 ・話し合い活動を通して、他者の考えから自らの思考を深める。 ・オープンクラス・ウィークを年2回実施し、他教科等の授業方法を学ぶ。特にICTの活用について意識して行う。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○チャイム着席ができている生徒の割合が94%で、学習の準備ができている。 ○自分の課題を理解し、意欲的に取り組んでいる生徒が76%である。 ●家庭学習の習慣が身につけている生徒が50%であり、宿題以外の勉強をする習慣が身に付いている生徒が59%である。主体的に家庭学習に取り組むことに課題がある。	・主体的に授業に臨む基本的姿勢が確立でき、学習に課題意識を持って取り組むことができる。 ・自分の学習状況を振り返り、課題を見つけ、その課題を解決できるよう計画を立て、家庭学習で実践することができる。	・「授業のルール10か条」を全学級に掲示し、ほめて励ます指導を通して学習規律を徹底する。 ・各授業で「めあて」と「振り返り」を行い、見通しのある授業を展開する。 ・テスト前に、学習記録表等を配布し、目標の設定や学習状況の記録、テスト後の振り返りを行い、自らの課題を見つけさせる。 ・日々の提出物を徹底して出させ、家庭で学習する習慣が身につくようにさせる。			